

研究および事例報告

「初山別村住民の生活実態と課題に関する アンケート調査と結果」

佐藤 信（北海学園大学経済学部 教授）



【講師 佐藤会員】

みなさんこんにちは。北海学園大学経済学部地域経済学科に所属しています佐藤と申します。昨年8月下旬と9月上旬の2回にわけまして、私の研究室のゼミ生をつれて村内すべての世帯にアンケート用紙を配布いたしました。それを回収し、分析した結果について報告させていただきます。

なぜ初山別村でアンケート調査を行ったのかという経過につきまして簡単にご説明いたします。私のゼミでは一昨年、音威子府村で同じような住民調査を行っています。道内で一番人口の少ない村が音威子府で、3月現在で800人を切りそうな勢いで人口が減っております。その音威子府村へ、15年くらい前から「定点観測」という形で調査を続けてきておりまして、特に、生活面、産業面、環境面、住民意識の変化等を15年前、10年前、5年前といった間隔でずっと追跡調査しております。私の地域研究における中心的な調査対象になっているわけですが、おそらくその調査内容等を見て、初山別でも同じように調査できないだろうかという協力依頼がありまして、この研究会に参加することになったわけです。（以下、説明要旨。資料 -1～ -27）

調査日程等

第一回目、8月30、31日（市街地の国道から海岸寄りの世帯と村内北部地域の世帯）二回目、9月6～8日（残り全世帯）。配布数は全600世帯中、548世帯でした。アンケート用紙を配布する際には、村に対する要望や行政に対してどういう考え方を持っているかなど、いろいろな意見をお聴きし、アンケート用紙に記入後、用紙を郵送で返信してもらう形で回収しました。回収したのは292通で、配布世帯数の53.3%、全世帯数の48.7%と大体50%前後の回収率でした（資料 -2）。

回答者の属性

集落ごとの回収率は、どの集落もほぼ50%前後。年齢別の回収は65歳以上が40%超。初山別村そのものが高齢化率の高いという統計上の特徴があり、その特徴とほぼ同じようなアンケート結果でした。家族構成は一人暮らしが68世帯で23.3%、そのほかには夫婦世帯、親子同居世帯が多い状況です（資料 -5,6,7）。

村内の主な買い物先

「村内の買い物先で一月あたり最も多い金額を支出するところはどこですか」との設問、つまり一番支出の多い利用先を聞いたところ、一番目が農協店舗、つぎに個人商店、そして三番目が生協の通販でした。また村では買い物はしないという回答も多くありました（資料 -8）。

「生協トドック」については、調査前の想定より、利用者が相当多いということが分かりました。これは、初山別村の独特の特徴ではないかと見ています。

買い物先

「生協トドック」の利用者の居住地域に関してこまかくみたところ、初山別市街がもっとも多く、次いで豊岬の順でした。次に、職業別で「トドック」の利用者をみたところ、「トドック」を利用するのは職業別にみると、公務員の50%近く（回答者26人中12人）、団体組合職員が約40%（回答者17人中7人）と利用割合の高い傾向がうかがえます。村内の買い物先は「利用しない」という回答者も67名（回答者の約23%）いました。

そこで、村外の買い物先としてどこが主なのかを見ますと、羽幌町内のスーパーが249人で、大部分の住民の皆さんが羽幌町内のスーパーを利用していることが分かります（資料 -9,10,11）。

買い物の足

当然、羽幌までは車で移動することになりますが、次に、世帯の中に車を運転する人がいるかどうかを聞いたところ、8割近

い人が「いる」と答えています。ここで「生活支援システム」を考えると、問題となるのは、車を運転する人がいないと答えた19.9%、58人の内訳です。その回答者の家族構成を調べたのが次のグラフです（資料-14）。58人のうち36人が一人暮らしでした。この方たちは、買い物等にどのような交通手段を使っているかを考えますと、自分でバスやタクシーに乗るか、近所の人にさせてもらう、あるいは子供の自家用車によって手伝ってもらうしかありません。

そこで、58人の中で子供との関係はどのようなかを調べました。まず、この58人中54人が65歳以上で、ほとんどが高齢者です。このうち「子どもはすべて独立しているが、村内に住むこどもがいる」「子どもはすべて独立しているが、通えるところに住んでいる」とした人たちが合計29人と半数。

つまり、この高齢たちの多くは、自分で車の運転はしないが、子供に運転してもらって買い物や病院に行っているのではないかと、という図式が浮かび上がります。音威子府村の住民調査でも同じような結果が得られておりまして、買い物や通院における不便な部分を、もっぱら子どもに支えられて生活している人が非常に多いという結果が得られています。

しかし、近くに子どものいない人たちにとっては死活問題で、隣近所との付き合いや助けがあればいいのですが、それが無くなれば、もうそこには住めないということになります。高齢化や人口減少がすすみ、そろそろこうした深刻な状況をむかえつつあるのではないかと、調査結果から、こうした実態が浮かび上がってきます。生活支援の優先度を考えるとき、このような高齢者たちが第一の支援対象になるだろうと思われれます。

病院

村の診療所の利用が一番多く、次に羽幌町内の病院でした。単純集計のため、内訳については詳しく分析していません。歯医者については、お金のある人は札幌に行くとの（音威子府村での）調査結果を得ており、病院の利用先については、初山別でも同じような傾向になるかと思われれます。

病気・高齢に関する必要なサービス

雪寒冷地における必要な公的サービスを聞いたとき、回答結果で必ずトップに来るのが「除雪」ですが、初山別ではそれがトップに出てこなくて「送り迎え」が一番目

でした。つまり、「あなたが同居している家族が病気や高齢で日常生活が不自由になったとき、どのようなサービスが必要ですか」という設問に関して、買い物、通院の手伝いを併せた「送り迎え」が初山別では最も多くなっています（資料-17）。

情報機器についての集計

資料-18は、「所持している情報機器があればその台数も含めて教えてください」という質問に対する回答です。自由に記述してもらう欄の中に「7割近い村民が携帯を持っているのだから、全員に携帯を配る必要はそれほどないんじゃないか」との意見がありました。実際、この7割と書いた方は、村の状況を良くご存知だったのかと感心しています。

実際に集計してみると大体7割が携帯電話を使っているとの回答になっていますから。持っていないという人が40世帯、このアンケートの回収率を50%とすると、単純計算では80世帯くらいは持っていないと考えられます。先ほどの（奥博嗣主幹の）説明では約69世帯に配布したとのことなので、アンケート結果は実態と大きなズレはないのかと思います。

所有者の年齢構成

20代から40代までは全世帯が何らかの情報機器を持っているとの回答でした（資料-19）。持っていないとの回答は50代で初めて出てきます。そして75歳以上では、33世帯が持っていないと回答しています。ここから読み取れるのは、高齢の方を除くみなさんの大方は何らかの情報機器を持って使っているという実態です。

インターネット利用

インターネットを毎日利用している人と、まったく利用していない人が、両極端に分かれています（資料-20）。ただし、家では利用していないものの、職場では使っているという人もいるため、実態はこれほど両極端に分かれていないのかもしれませんが。年齢、職業などを加味してももう少し詳細な分析をすると、さらに具体的な利用目的と利用者層が判明するのではないかと考えられます。

インターネットの利用目的は（資料-21）「言葉や物事を調べる」、「商品を購入する」、「製品情報を取る」という、通常見られるような利用目的に沿っていると思います。

通信会社

昨年9月以降行った集計作業で、調査した学生も私もちょっと驚いたのですが、ドコモが非常に多いですね。情報端末を配布するという村の取り組みが進めば、今後は変化があると思いますが、当時の結果としてはこのような結果でした(資料 -22)。

まとめ

以上、少々粗っぽい分析結果の紹介でしたが、概ね三つのことが言えます(資料 -23)。

一つは、「生協トドック」の非常に高い浸透度があるというのが初山別村の特徴かと思えます。村の小売業の現状の影響から来ているのかなと思えますが、北海道全域の生協展開から見ても初山別の浸透度は非常に高いと思えます。

二つ目は情報機器の利用の状況ですが、使っている人と使っていない人が両極化し

ていること。使っている人の個別の意見としては、村の事業で全員に情報端末を配布するというのには必要ないのではないか、と非常に厳しい指摘があります。インターネットを日常的に使いこなさず、ネット通販を利用している若い世代ほど厳しい考えを持っているようです。これに対して、使っていない、携帯を持っていないという高齢の方は村の事業をいいことだと判断しているようです。

まとめの三つ目です。単純に全員に平等に支援するシステムを作るというやり方ではなく、住民のみなさんの生活環境や生活条件はそれぞれ異なっているため、いろんな生活スタイルに合わせた支援の仕組みの構築が必要だと思われます。その目的をひと口で言うと「今以上に楽しく暮らすことのできる仕組みづくりが必要じゃないか」と言うことになります。

(佐藤先生の事例報告に関して、参加者を代表して村の住民課長に話していただいた)

【住民課：荒木課長】



意見ではありません。感想としてお話しします。

買い物については考えていたような調査結果がでるのかなと思っていましたが、村内での買い物に村の商店の利用が多いこと、村外の利用について実態として羽幌町での利用が多いことをあらためて感じました。

買い物で車など足のない高齢者について以前から心配はしていましたが、村内の店で買える商品には限りがあるので、その辺

でご苦労されている方が多いのかと思います。

医療については、診療所があり医師も常勤しているので、一次医療としては皆さんある程度は心配なく受けていると思えますが、救急の面や手術を伴うような専門的な治療には、留萌市立病院、札幌、旭川の病院に行かざるをえないという実態があります。住民のみなさんの健康を守るという点から、今までも心配していましたが、これからの重要な課題だとあらためて感じています。

(このあと、「トドック」の実態について質疑応答があり、「トドック」利用の参加者から購入状況の説明があった)

【会場：参加者 菊井氏】



です。

電化製品や雑貨は村で買えないため、インターネットを利用して買うことが多いです。買うのにはどうしても札幌や旭川に行くことになり、送料が掛かってもネット購入が割安な感じ

「トドック」の配送は週1回です。「トドック」では、卵や牛乳など定期的に買うものと雑貨類が多く、7割を占めているかと思えます。生鮮食料品は村外のスーパー、羽幌や留萌で買うことが多いですね。とくに野菜類は、自分で物を見て確かめてから買うのが必要で、現物を見ることができない点から、近頃は「トドック」での生鮮食品購入は少なくなっています。

(2012.3.5)

研究および事例報告

初山別村民の生活実態と課題に関するアンケート調査結果

北海学園大学経済学部

佐藤 信

Sato Makoto

ks9570@hokkai.or.jp

資料②-1

◇調査日程

第1回：8月30～31日（市街＋北部中心）

第2回：9月6日～8日（市街＋残り地域）

◇方法

各家庭を訪問し、アンケート用紙を手渡しするとともに調査趣旨を説明。同時に村に対する要求、意見を伺う。

◇回収結果

全600世帯のうち548世帯に配布。10月上旬までに292通を回収。配布世帯中の回収率は53.3%。全世帯中の回収率は48.7%。

資料②-2

一報告の順序一

1. 回答者の属性

(1)集落ごとの回収数・率 (2)年齢 (3)家族構成

2. 買い物について（村内）

(1)主な買い物先（村内）(2)集落ごとに考えた主な買い物先（村内）(3)職業ごとにみた主な買い物先（村内）

3. 買い物について（村外）

(1)主な買い物先（村外）(2)世帯の中に普段、運転をする人がいるかどうか (3)家族構成で見た運転者の有無 (4)運転する人がいない世帯と子どもとの関係 (5)お米はどのようにして手に入れているか

資料②-3

一報告の順序（続）一

4. 利用する病院、頼る人、必要な支援等

(1)よく利用する病院 (2)病気や高齢になったときの頼る相手 (3)病気・高齢に対する必要なサービス

5. 情報機器について

(1)所持する情報機器と台数 (2)年齢階層ごとの情報機器の所有の有無 (3)家でのインターネット利用頻度 (4)インターネットの利用目的 (5)所持する携帯電話のシェア

6. まとめ

資料②-4

1-(1) . 回答者の属性(集落ごとの回収数・率)

	回収数	全世帯数	回収率(%)
集落別	2	0	-
初山別	141	311	45.3
有明	41	82	50.0
栄	10	22	45.5
千代田	8	16	50.0
豊峰	49	83	59.0
明屋	38	74	51.3
共成・大沢	3	12	25.0
合計	292	600	48.7

資料②-5



資料②-6

1-(3) 家族構成

一人暮らし	68	23.3%
夫婦世帯(二人暮らし)	91	31.2%
夫婦世帯でどちらか又は二人とも65歳以上	10	3.4%
夫婦世帯でどちらか又は二人とも75歳以上	12	4.1%
二世帯同居(親と子)	88	30.1%
三世帯同居(親と子と孫)	12	4.1%
その他・無回答	11	3.8%
合計	292	100.0%

資料②-7

2-(1) 主な買い物先(村内)



資料②-8

2-(2) 集落ごとにみた主な買い物先(村内)

	近所なし	近所	村内個人商店	近所・近所	その他	近所しない・無	合計
物山集	20	48	28	3	42	141	
高野	8	17	2	0	14	41	
栗	7	1	0	0	2	10	
千代田	5	0	1	1	1	8	
豊神	29	1	10	1	8	49	
朝風	19	1	11	3	4	38	
高成・大	1	0	1	0	1	3	
池	2	0	0	0	0	2	
合計	91	68	53	8	72	292	

資料②-9

2-(3) 職業ごとにみた主な買い物先(村内)

	近所なし	近所	村内個人商店	近所・近所	その他	近所しない・無回答
専業主婦	1	1	0	1	0	0
専業主夫	2	31	4	13	2	12
専業主夫	0	3	3	1	4	3
専業主夫	0	4	3	1	1	8
専業主夫	0	2	3	12	0	9
専業主夫	0	3	2	7	2	3
専業主夫	1	41	33	7	3	17
その他	1	6	15	12	0	19

注:職業については複数回答あり。

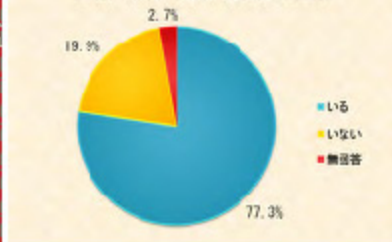
資料②-10

3-(1) 主な買い物先(村外)



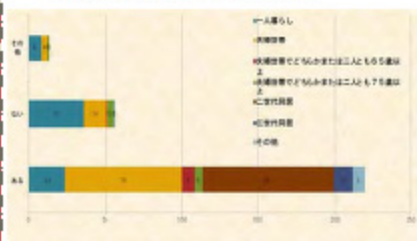
資料②-11

3-(2) 近所の中心商店、専業主婦する人がいるか



資料②-12

3-(3) 家族構成で見た運転者の有無



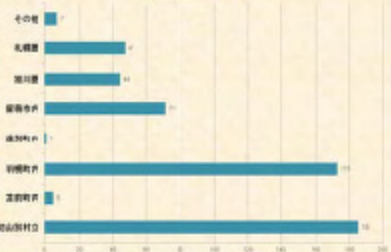
資料②-13

3-(4) 運転する人がいない世帯と子どもとの関係

	回答者	うちの歳以上
同居している子どもがいるが、両方も運転するかは分からない	1	1
子どもはすべて独立しているが、村内に住む子どもがいる	19	19
子どもはすべて独立しているが、通えるところに住んでいる	10	10
子どもは独立し、全て遠方に住んでいる	21	19
その他・不明	7	5
合計	58	54

資料②-14

4-(1) よく利用する機関



資料②-15

4-(2) 病気や高齢になったときの頼る相手

同居していない家族・親戚	126
隣近所や村内の知り合い	25
ヘルパー・保健師など	97
役場の職員	0
いない	27
その他・無回答	17
合計	292

資料②-16

4-(3) 病気・高齢に対する必要なサービス



資料②-17

5-(1) 所持している情報機器とその台数

台数	パソコン	携帯電話	インターネット できる 携帯電話	スマート フォン	その他	特に持っていない
1	99	84	22	9	7	40
2	26	92	39	0	0	-
3	11	29	9	0	0	-
4	2	7	2	0	0	-
5	0	1	0	0	0	-
6	1	0	0	0	0	-
世帯合計	139	213	72	9	7	40
割合 (%)	47.6	72.9	24.7	3.1	2.4	13.7

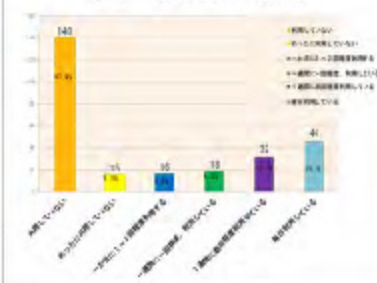
資料②-18

5-(2) 年齢階層で見た情報機器の所有の有無

年齢	パソコン	携帯電話	持っていない	合計
20歳代	6	7	0	10
30歳代	24	18	0	26
40歳代	31	33	0	38
50歳代	40	50	2	57
60～64歳	20	25	2	27
65～74歳	10	44	3	49
75歳以上	8	35	0	84
無記入	0	1	0	1
合計	139	213	40	292

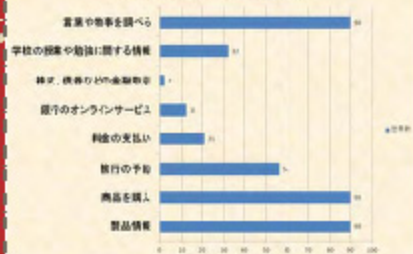
資料②-19

5-(2) 家でのインターネット利用頻度



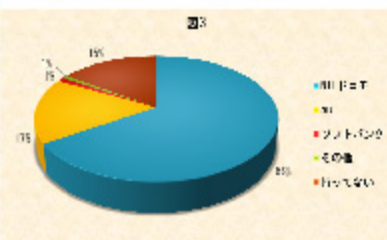
資料②-20

5-(4) インターネットの利用目的



資料②-21

5-(5) 所持する携帯会社のシェア



資料②-22

まとめ

1. 生協個配事業の高い浸透、買い物の村外利用
2. 情報機器の利用の両極化
3. いま以上に、楽に、楽しく暮らすことの出来る仕組みづくりの必要性

資料②-23

参考①：配布時の村民の主な声

- ・高齢のため、環境整備されても順応できない。
- ・配布される、電子機器を使えるようになるのは非常に骨が折れる。
- ・一方的に村が行動し、住民に対する説明の機会が少ない。
- ・災害時に素早く情報を交換することが可能になったり、便利になるなら早く実行してほしい。
- ・その他

資料②-24